

令和6年度 学校評価 中間報告

教育活動

石川県立医王特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	判定基準	分析（結果と課題及び改善策等）
(1) 授業実践力の向上	教科の見方・考え方の視点を意識した授業作り	教務課	校内研究会における授業作りの協議を通して、国語科の見方・考え方の理解を深め、授業の工夫・改善に取り組んだ教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数：10名 できた：2名 ややできた：7名 あまりできなかった：1名 できた：20%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：D 結果と課題：20%ができたと回答し、70%がややできた、10%はあまりできなかったと回答した。校内研究会において教科指導等研究会で行う指導案の協議を通じて、対象児童における国語科の見方・考え方を話し合ってきたが、さらに深めていく必要があると考えられる。 改善策：教科指導等研究会に向けて模擬授業や指導案の検討を行うことや教科指導等研究会における指導主事からの指導助言を受け、国語科の見方・考え方をさらに理解を深めていけるようにしたい。その上で、日々の授業において国語科の見方・考え方を意識し、工夫、改善を行っていく必要がある。
(2) 安心安全な学校づくり	感染症等の対応を含めた学校行事の柔軟な企画・運営	病棟訪問教育	学校行事、学部行事において、病院と密に連携し、安心安全に配慮し実施できたと感じた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数：12名 できた：10名 ややできた：2名 あまりできなかった：0名 できた：83%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 結果と課題：83%の教員ができたと回答した。コロナ禍での行事の実施方法から徐々に制限が解除され、今年度は安全安心に配慮しながら新しい方法での行事实施が求められた。行事に関するチェックリストを作成、活用し、教員の意識や重点項目を確認しているところである。係として分担された業務の把握はできているが、行事全体の情報共有が不足している点が課題と考えられる。 改善策：行事のチェックリストの結果を踏まえ、病院との打ち合わせ内容や今年度の変更点を中心に情報共有を図りたい。小規模校のため、全員が行事担当をできる状況作りが必要である。
	安全防災対策の充実	指導課	地震に対する、本校の安心安全への対策について理解し、満足している児童生徒・保護者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数：12名 できた：10名 ややできた：2名 あまりできなかった：0名 できた：83%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 結果と課題：83%の保護者ができたと回答し、学校の対策に概ね満足を示している結果であった。昨年度の能登半島地震を踏まえ、学校の危機管理体制の見直し、充実を図り、保護者への周知に取り組んでいるところである。具体的には災害対応物品の充実や情報提供方法の改善・拡充、病院との連携である。また、進捗状況をホームページや学校だより等で伝えている現状である。 改善策：保護者のニーズについて確認し、必要な対策を検討しながら取り組んでいく。また児童生徒への指導の充実、心のケアについても同時に考えていく。
(3) 専門性の向上とセンター的機能の充実	病種理解のための研鑽	教務課	病種理解の研修会等への参加を通して、専門的な知識が増え、今後の指導に活かすことができたと感じた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数：12名 できた：3名 ややできた：9名 あまりできなかった：名 できた：25%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：D 結果と課題：前期は福井大学の笹原先生を迎え、2名の児童を対象に校内研修会を行ったり、重度重複障害児のかかわり方における公開研修会を行ったりしたが、専門的な知識が増え、今後の指導に活かすことができたと回答した教員は25%であった。 改善策：11月には、医王病院のソーシャルワーカーによる医療的ケア児の災害時支援活動についての研修会を企画している。来年度に向けて教員のニーズを把握し、専門的な知識を増やし、指導に活かしていけるような研修を計画していく必要がある。
	教育機関・他機関との連携	コーディネーター、専門相談員	年2回の情報交換会や継続的な相談を通して、その内容を児童生徒への対応や指導に活かすことができた特別支援学級等担当者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数：8名 できた：7名 できなかった：0名 今後活かす予定：1名 できた：87%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 結果と課題：県内の病弱特別支援学級担当者に6月までに状況の連絡等を行い、そのやりとりの中で相談に対応してきた。8月末には情報交換会及びアンケートを行い、8校中7校から指導に活かすことができたとの回答を得た。 改善策：病弱特別支援学級の担任の半数程度が初めて病弱学級を担当しており、専門相談員を利用して相談するということにつながるケースが多い現状がある。こちらから状況確認を行う等、専門相談員を身近に感じてもらったり、オンライン相談の活用を行ったりする等、相談しやすい環境作りを行っていききたい。
(4) 業務の効率化	効率的校務処理の推進	教頭	各課等において業務内容の共通理解を図り、効率的に校務処理を行うため、データファイルの管理、手順書、ファイル等の見直しなどの改善を2つ以上行った教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数：12名 できた：1名 ややできた：10名 あまりできなかった：1名 できた：8%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：D 結果と課題：「できた」の回答は8%であり、「ややできた」の回答が殆どであった。学校全体として、年度当初、今年度以降使用するフォルダを別にしながら業務に関するデータの整理を行っている。また、各課会等でここ数年の動向をふまえ、業務内容の共通理解を図りながら手順表の確認やファイル等の精選等を行っているところである。 改善策：今後も全職員が業務の効率化を図る意識をもって、各部・課等の業務や手順表の見直しを行うと共に、より良いファイル整理を行っていく。また、迅速なデータ検索や保存等につながるようデータフォルダの整理・改善を進めていく。